ふしぎなフーセンガム

「自分らしさ」ってなんだろう

3年　S・Oさん

「女の子なのになんでスカートをはかないの?」

これは私が二年生の時に、学校の友達から言われた言葉です。

私はズボンをはくことが好きでした。だから、いつものようにズボンをはいていただけでした。それなのに、いきなり友達から言われたその言葉に、私はショックを受け、うまく答えることができませんでした。自分が着たくて着ているものを、おかしいと思われたことがふしぎでした。その言葉は、しばらく私の頭からはなれませんでした。

じゅんは、あの時の私と同じなのではないかと思いました。家で遊ぶのが好きなじゅんに対して、お母さんは困った様子で、男の子らしく外で遊ぶように言います。その言葉にじゅんがひっかかっている場面を読んで、自分のなやみと同じだということに気がつきました。そして、やまんばみこの自分に正直な姿を見て、じゅんが「ぼくはぼく」なのだと気づく場面を読んだ時、私の中にのこっていたモヤモヤがすっきりしたように感じました。

「らしさ」とは、いったい何なのでしょう。この本を読みながら、女の子だからスカート、男の子だからズボン、というように、人の好きなものや似合うものまで決めてしまっていいのだろうかと考えました。もちろん、スカートが好きな女の子もいると思います。でも、私のようにズボンが好きな女の子もいます。男の子でも、じゅんくんのように、しずかに遊ぶのが好きな子もいます。私の弟も、ピンク色や、かわいいものが大好きです。

大切なのは、「男の子だから」「女の子だから」ではなく、その人が何を好きで、どうしたいと思っているかではないでしょうか。私は女の子で、日本人で、弟のいるお姉ちゃんです。でも、それだけで「私らしさ」が決まるわけではありません。私はこれから、自分の好きなものや思ったことを、はずかしがらずに大切にしたいです。そして、「私は私」と自信を持って言える人になりたいです。それに、私もだれかのことを、勝手に決めつけないようにしたいです。

あの時、友達に言われた「女の子なのになんでスカートをはかないの」という言葉。今の私は、自信をもって答えます。

「だって、ズボンのほうが好きだから。」